

令和5年度 第36回

# 山梨県図書館大会 プログラム

## 大会テーマ 集う場としての図書館

リアル  
コロナ禍を経て、「対面」の意義が問われている。  
図書館という場所に足を運んでもらうこと、  
その意義と方策を考える。



会 場 市川三郷町生涯学習センター（i fセンター）  
西八代都市川三郷町市川大門1437-1

主 催 山梨県公共図書館協会 市川三郷町 市川三郷町教育委員会

後 援 山梨県教育委員会 公益社団法人日本図書館協会 山梨県公民館連絡協議会  
山梨県学校図書館教育研究会 山梨県高等学校教育研究会学校図書館部会

### 会場案内



## 〔日程〕

9:30 10:00 10:30

12:00 13:00 13:30

15:40 15:50 16:00

受付	開会式	記念講演	昼食	受付	分科会	閉会式
----	-----	------	----	----	-----	-----

〔開会式〕 10:00～10:30 〈会場：多目的ホール（2階）〉

はじめのことば

主催者あいさつ

来賓祝辞

読書・図書館関係表彰伝達披露

日程説明

〔記念講演〕 10:30～12:00 〈会場：多目的ホール（2階）〉

### 「絵本と鳥の巣のふしぎ—鳥の巣が教えてくれること」

講師 鈴木 まもる 氏（画家、絵本作家、鳥の巣研究家）

#### 〈プロフィール〉



1952年、東京生まれ。東京藝術大学美術学部工芸科中退。

1980年、絵本『ぼくの大きな木』（鶴見正夫／文 偕成社）で絵本作家としてデビュー。1986年に静岡県伊豆に転居。鳥の巣の造形的魅力にとりつかれ、独学で巣の研究と収集を始める。

1998年から全国各地で鳥の巣と絵画の展覧会、講演会を開催。2006年『ぼくの鳥の巣絵日記』（偕成社）で講談社出版文化賞絵本賞を受賞するなど数々の受賞作がある。絵本・童話のイラスト 200冊以上を手がけている。



#### 【主な著書】

『せんろはつづく』シリーズ（金の星社 2003年～）

『みずとはなんじゃ？』かこさとし／作（小峰書店 2018年）

『身近な鳥のすごい巣』（イースト・プレス 2023年）他多数。

お願い（記念講演） 録画・録音・撮影は禁止とさせていただきます。

昼食時間（12:00～13:20）、市川三郷町立図書館を見学することができます。

〔分科会〕 13:30～15:40

第1分科会

〈会場：多目的ホール（2階）〉

## 「“場”としての図書館の可能性を考える」

コロナ禍により図書館は臨時休館し、その後も来館者が減少したことで、オンライン等での新たな活動が注目されてきた。しかしアフターコロナの時代においては、「あえて図書館に集まることの意味」についても考えることが必要ではないだろうか。県内外の先進的な取り組みを知ることで、新たに図書館に求められる役割など、図書館という場について再定義する契機としたい。

### 課題提起・講義「誰が集う場なのか：アフターコロナにおける場としての図書館」

河本 稔馨 氏（山梨英和大学人間文化学部助教）

コロナ禍を経て、図書館でも電子書籍の導入やサービスのDX化などが拡大し、来館せずとも一定の範囲で利用が可能なデジタル環境が整いつつある。一方でアフターコロナの現在において、コロナ禍以前の生活に戻ろうとする人々の行動も顕著であり、「物理性」が持つ重要性を改めて考え直す契機となっている。本講義では、とりわけ人々が集う場としての図書館に注目し、国内外の先進的な図書館によるサービス・活用事例を通してその使命や役割を検討したい。



### 事例発表①「図書館の名を持たない山中湖情報創造館という“場”づくり」

丸山 高弘 氏（山中湖情報創造館 指定管理者統括責任者）

平成16年4月から日本で最初の指定管理者制度を導入した山中湖情報創造館。図書館法に基づく機能を有しながらも、情報創造館という新しい名前を持つ施設を、山中湖村の文化向上と生涯学習の“場”として、いかに取り組んできたかを、ダイジェスト版で解説する。



### 事例発表②「7年間で来館者数 1800 万人

～健康都市における市民の居場所づくり～

松田 彰 氏（神奈川県大和市立図書館館長／日本図書館協会認定司書 第1196号）

神奈川県ほぼ中央に位置する大和市。県内での認知度も低く、ネガティブなイメージが先行していたまちが、図書館を中心とする複合施設「大和市文化創造拠点シリウス」のオープン以降どのように変化したか。また、シリウスが市民生活にどのような影響を与えたかを、運営コンセプトや取り組み事例、利用者の声とともに紹介する。



### ディスカッション（登壇者3名による）

**「図書館に来てみない？ －児童・生徒へのアプローチ－」**

コロナ禍による様々な制限は緩和・撤廃されたが、電子書籍やオンライン小説が普及し、読書以外の様々な趣味や娯楽も増えている中、児童・生徒に図書館へ足を運んでもらうためには、大人とは異なるアプローチが必要である。これらの年代に向けて県内外では様々な取り組みが行われており、2つの活動紹介により、今後の児童サービス、YAサービスへの参考としたい。

**講演「図書館で会おう！ 読もう！ 遊ぼう！」****－勝沼図書館カムカムクラブの20年の歩み－****青柳 啓子 氏（甲州市立勝沼図書館司書）**

カムカムクラブは、甲州市立勝沼図書館が2003年に設立した子ども読書クラブである。小学3・4年生20人ほどを対象に、読書へのアニメーションや様々な体験活動を月1回実施している。「楽しく学ぶ」をモットーに、子どもたちの主体性を大切に、自ら考える子どもを育てることを目指してきた。遊びを採り入れた具体的な活動を紹介しながら、過去20年の歩みを報告する。

**講演「YAと楽しむ、集い繋ぐYAサービス****～ヤングアダルト&アート・ブックス研究の事例から～****大江 輝行 氏（（一社）日本子どもの本研究会研究部会「YAA！」共同代表、  
元・自由の森学園中学校高等学校図書館司書）**

2021年～2023年の日本子どもの本研究会全国大会分科会「中高生の読書」に登壇したYAの発言と、YAが企画・運営に参加する「ヤングアダルト&アート・ブックス研究部会（YAA!）」の活動から、「広がるヤングアダルト・ブックス」「YAのためのアート・ブックス」「SNSライブとYAの読書」「YAに心地よい場」に焦点を当てた事例を報告し、YAの興味・関心を喚起し繋がっていくYAサービスについての話題を提供する。

**〔閉会式〕 15:50～16:00 〈会場：多目的ホール（2階）〉**

館内は禁煙です。持込みゴミのお持ち帰りにご協力ください。